

施策評価シート

幹事部局

環境生活部

施策の名称	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用
施策の目的	<p>心豊かに暮らすために身近な自然環境を保全し、また、人々の活動の舞台として、歴史・文化で彩られた自然景観や色々な動植物が生きる自然環境の魅力を活用します。</p>
施策の現状 に対する評価	<p>(自然保護に対する県民意識の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアや地域住民が連携して活動を行うことで、自然保護に対する県民意識は高まりつつある。鳥獣保護区等を計画的に指定している一方、農作物被害等により住民理解が得られにくくなっている。引き続き県民の意識・理解を醸成するため持続的な取組が課題である。 <p>(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然公園等の利用者数が増加しているほか、学習施設では企画展や自然とふれあうイベントの開催等により、自然観察や環境学習の機会創出に貢献している。一方、入館者数の減が課題である。 <p>(自然の活用の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園満喫プロジェクトでは、体験プログラム造成やモニターツアーの実施により利用促進を図ったが、外国人観光客の認知度は低く、地元ガイド不足などが課題である。また、隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、認知度不足等により交流人口など具体的な数値に結果が表れていない。情報発信や自然を活用した誘客増の取組が課題である。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民や関係団体への意識調査・アンケート等を通じ、課題抽出や対策の検討を行っている。適宜、展示施設等の改修整備を行うとともに、施設や自然の魅力をPRするため、情報発信手法の再検討やSNSの効果的活用など、誘客・集客増に向けた取組を行っている。
今後の取組 の方向性	<p>(自然保護に対する県民意識の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然保護ボランティア育成研修の実施や自然保護活動への参加を呼びかける広報・PRなどを実施し、担い手育成と人材の掘り起こしを行う。また、宍道湖・中海の利用促進については、関連施設と連携したPRを行う等により来訪者の増と認知度向上に取り組む。 ・ 鳥獣の被害対策と保護管理を両立するため、生息動向の把握に努め、保護活動や被害対策の事業を実施し、住民理解を得るよう努める。 <p>(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然公園等や三瓶自然館、宍道湖自然館、しまね海洋館、花ふれあい公園の各施設において、新たな魅力を感じてもらおう、各種イベントの開催や情報発信の強化などにより利用者の増加を図る。 <p>(自然の活用の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスへの対応を踏まえつつ、満喫プロジェクトにおいては、体験プログラムの充実やガイド養成等を行い、国内外からの誘客促進を図る。また、隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、デジタルマーケティングの実施やSNSでの情報発信、拠点・中核施設の整備により、認知度及び来島者の満足度向上に繋げる。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	県立しまね海洋館の管理運営	県民	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。	215,036	290,177	しまね暮らし推進課
2	自然保護のための情報収集・整理事業	県内の自然情報	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。	3,207	3,278	自然環境課
3	自然環境保全地域の保全事業	自然環境保全地域の自然環境	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。	1,195	1,026	自然環境課
4	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業	レッドデータ生物の生息・生育環境	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する	3,397	2,942	自然環境課
5	県民参加による自然保護活動事業	県民や地域の活動団体	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。	2,985	4,114	自然環境課
6	自然公園管理事業	自然公園利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	20,101	52,114	自然環境課
7	中国自然歩道管理事業	中国自然歩道の利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	8,283	8,264	自然環境課
8	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	県民及び県を訪れる人々	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	306,342	355,185	自然環境課
9	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	平成25年9月に世界認定となった隠岐ユネスコ世界ジオパークの取り組みで、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る	72,656	67,646	自然環境課
10	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す	377,794	388,644	自然環境課
11	穴道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	ラムサール条約の趣旨である「環境の保全」と「賢明な利用(ワイズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。	6,359	8,023	環境政策課
12	野生鳥獣保護対策事業	野生鳥獣が生息する自然環境	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、多くの県民に恵まれた自然環境を大切にすることを意識を持ってもらう	51,898	48,341	農林水産総務課
13	花ふれあい公園事業	県民	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興	84,771	91,856	産地支援課
14	穴道湖自然館管理運営事務	一般来館者、一般県民	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	114,886	113,005	水産課
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

しまね暮らし推進課

事務事業の名称		県立しまね海洋館の管理運営			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。		215,036	290,177
			うち一般財源 (千円)	215,036	290,177
今年度の取組内容	水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発などを行うため、指定管理者制度により施設の管理運営を行う。指定管理者制度の円滑な運営にあたり、指定管理者である公益財団法人しまね海洋館との連絡調整や老朽化した備品等の更新・修繕を行う。 入館者数の回復・拡大を図るため、しまね海洋館の魅力向上に向けた方策を検討する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・建築基準法施行令の改正に伴う特定天井改修の設計完了を受け、改修に向けた関係機関との調整や予算要求作業等を実施 ・入館者等を対象としたアンケート調査の結果を踏まえ、短期的・中長期的視点で集客対策を検討				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立しまね海洋館の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		36.2	36.2	36.2	36.2	36.2	万人	単年度値
		実績値	34.6							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<p>○入館者数は、前年度対比で約1万2千人増の約34万6千人となった。2月末の段階で前年度の入館者数を超えたが、3月については新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてイベント等を休止した影響により、前年同月比で16,312人の減となった。</p> <p>○学習機会の提供として、各種教育活動の受け入れや出張講話等を実施。</p> <p>・学校教育課程の受け入れ:45件、2,162名 ・保育園、子供会等の受け入れ:37件、1,307名</p> <p>・出張講話、観察指導:58件、1,806名 ・職場体験、実習等の受け入れ:7件、8名</p>								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対策として、外国語サイトを4言語(英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語)及び外国語簡易ページを5言語(タイ語、フランス語、ポルトガル語、ロシア語)作成。 ・交通広告(ターミナル含む)及びテレビCM等を活用した情報発信を広島県及び島根県内において重点的に実施。 ・しまね海洋館の魅力向上に繋がる受入環境整備や効果的なプロモーションなどを行うための基礎資料とするため、入館者等の動態やニーズ等を把握するためのアンケート調査を実施。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年間入館者数の減少。 ・生物の繁殖・飼育、健康管理、展示等に必要な備品等の不足・老朽化。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域での新たな水族館の開館。 ・魅力の低下(他の水族館との差別化、パフォーマンス等の恒常化)。 ・国内外の観光客への認知度不足。 ・飼育や展示等に必要な備品等が多数あるため、購入・更新できる備品が限定される。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者等を対象としたアンケート調査結果を踏まえ、新たな生物の導入や施設の魅力アップを検討していく。 ・対象地域や対象者等を意識した効果的な情報発信を行う。 ・計画的に備品等を購入・更新していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然保護のための情報収集・整理事業			
目的	誰(何)を対象として	県内の自然情報	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。		3,207	3,278
			うち一般財源 (千円)	3,207	3,278
今年度の取組内容	自然環境を保全するための施策を推進するために、県内に生息する多種多様な野生動植物に関するデータを収集・整理する。開発事業者に対して希少な野生動植物に関する情報提供を行うとともに、その保護に関する指導を行う。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 開発事業者等からの問い合わせ(事業区域内における希少野生動植物の生息・生育の有無や影響の回避低減)に対して、的確に対応した。 レッドデータブックに記載している、掲載種の生息・生育分布図を統合型GIS上に整備した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 希少野生動植物の生息・生育情報などの調査研究情報は、県、教育・研究機関(大学、三瓶自然館、宍道湖自然館など)、民間研究者、NPO等の様々な主体が、それぞれに蓄積している。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 県において全ての希少野生動植物の調査研究することは困難で、各主体の調査研究情報を共有する明確な仕組みがない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 教育、研究機関、民間研究者、NPO等との調査研究情報の共有ができるよう緊密な連携を図り、調査研究成果や知見を共有し、レッドデータブック改訂作業に併せて県に調査研究情報を集積する仕組みを作る。 県に集積した調査研究情報を活用した普及啓発を行い、県民の自然保護への関心度の向上と意識の高揚を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然環境保全地域の保全事業			
目的	誰(何)を対象として	自然環境保全地域の自然環境	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。		1,195	1,026
			うち一般財源 (千円)	1,195	1,026
今年度の取組内容	「島根県自然環境保全条例」に基づき指定している「島根県自然環境保全地域」の適正な保全を図るため、地元の保護育成団体に保護管理を委託するとともに、自然保護指導員を配置し、巡視活動等を実施する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	県が整備した施設が老朽化していたため、維持修繕を行った。(赤名湿地性植物群落・西谷川オオサンショウウオ繁殖地)				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全地域(6地域)の維持管理を各地域の地元住民で構成している保護育成会に委託している。 ・保全地域の保全状況の確認及び観察者への指導を行う、自然保護指導員(6人)を任命している。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・地元保護育成会の維持管理と自然保護指導員による巡視活動や観察者への適切な指導により自然環境保全地域(6地域)の自然環境の保全が概ね図られている。
課題分析	① 課題	・自然保護指導員及び地元保護育成会の活動の縮小が懸念される。 ・自然環境の悪化、生物多様性の劣化が懸念される。
	② 原因	・人口減少と高齢化による地元保護育成会会員及び自然保護指導員の担い手減少。 ・県で整備した歩道などの施設の老朽化。 ・近年の豪雨等により、適切な自然環境が損なわれている。
	③ 方向性	・地元保護育成会会員及び自然保護指導員の担い手育成や他地域のボランティア団体との連携・協力を促す。 ・施設の維持修繕、自然環境保全のための対策を実施する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業			
目的	誰(何)を対象として	レッドデータ生物の生息・生育環境	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する		3,397	2,942
			うち一般財源 (千円)	2,149	2,151
今年度の取組内容		「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」の指定希少野生動植物について、自然保護団体等と連携した保護対策や生息・生育環境の保全対策を実施する。 自然環境保全に対する県民意識の関心度の向上と意識の高揚のため、「しまね生物多様性地域戦略」の策定を行う。			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・県民の自然環境への意識・関心を計るため、県民意識調査を実施した。 ・「しまね生物多様性地域戦略」策定に向け、「生物多様性ワーキング会議」を開催し、専門家による検討を行った。			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	指定希少野生動植物の指定数【3月末時点】	目標値		5.0	5.0	6.0	6.0	7.0	種	累計値
		実績値	5.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・指定希少野生動植物を対象に、保護巡視員・団体が巡視活動を実施した。 ・保護管理計画に基づき、自然保護団体及び関係機関等と共同で保護活動、モニタリング調査等を実施した。 ・レッドデータブック掲載種(植物)やその保全活動を紹介する普及啓発リーフレット・テレビ番組・DVDを制作し、情報発信を行った。
課題分析	① 課題	・希少野生動植物の減少や自然環境の劣化
	② 原因	・レッドデータブック掲載種などの希少野生動植物の保護や自然環境の保全に関する県民の関心度が低く、自然保護活動等に対する十分な理解が得られていない。
	③ 方向性	・自然環境の保全や生物多様性の確保を図るため、「しまね生物多様性地域戦略」の普及などにより、県民の自然環境の保全への関心度の向上と意識の高揚を図る。 ・レッドデータブックの改訂を行い、希少野生動植物の保護や自然環境の保全に関する普及啓発や情報発信を積極的に行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 自然環境課

事務事業の名称		県民参加による自然保護活動事業			
目的	誰(何)を対象として	県民や地域の活動団体	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。		2,985	4,114
			うち一般財源 (千円)	2,685	3,614
今年度の取組内容	自然保護活動団体等が行う自然保護活動や自然体験活動への支援を行う。 自然保護レンジャー等による巡視活動や自然保護活動への参加を推進する。 自然保護ボランティア等の養成と資質向上のための研修等を行い、自然保護活動の担い手の育成確保を行う。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	自然保護活動団体等の担い手確保のため、市町村、団体に対するヒアリングやアンケート調査を実施し、課題の洗い出しと対応策の検討を開始した。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然保護ボランティアの活動日数(年間)【当該年度4月～3月】	目標値		400.0	425.0	450.0	475.0	500.0	人日	単年度値
		実績値	630.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	「みんなで守る郷土の自然」等地域の新規選定数(令和元年度からの累計値)【3月末時点】	目標値		2.0	4.0	6.0	8.0	10.0	地域	累計値
		実績値	1.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・自然保護ボランティア(自然保護レンジャー、自然保護指導員、希少野生動植物保護巡視従事者、自然解説員)は326人。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・三瓶姫逃池や赤名湿地での自然保護ボランティア、地元関係者、行政機関等と一緒に保全活動を実施したことで、自然保護やボランティア活動に対する県民意識が高まりつつある。 ・自然保護ボランティアの巡視日数(延べ)は増加している。 ・自然観察ガイド研修は定員を上回る受講者があり、自然観察会などを通じた県民への自然保護活動への興味・関心の高揚や自然保護ボランティアの新規参入に期待が持てる。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因 ・人口減少と高齢化による自然保護ボランティアの担い手減少 ・主な活動の場である自然公園等の施設の老朽化や近年の豪雨災害等による施設の被災
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 ・自然保護ボランティア育成研修の実施によるボランティアの育成確保。 ・広報・PR等を通して自然保護活動への参加を広く呼びかけ、自然保護に興味・関心のある人の掘り起こし。 ・自然保護ボランティア団体による施設整備(修繕等)の支援

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然公園管理事業			
目的	誰(何)を対象として	自然公園利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		20,101	52,114
			うち一般財源 (千円)	12,202	14,314
今年度の取組内容	県内の自然公園(国立公園、国定公園、県立自然公園)では、各公園計画に基づき、公園を利用するための施設(遊歩道、駐車場、公衆トイレなど)が整備されている。このうち、県が整備した遊歩道や施設について、地元市町村に除草、清掃やパトロール等施設の日常管理委託を行う。また、快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行う。更に、自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。 また、今年度は、平成30年度に自然災害で法面崩壊等により被災した裏匹見峡歩道施設について、前年度の実施設計に続き、復旧工事を行う。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	管理を委託している関係市町村へヒアリングを実施し、事業を継続するうえでの課題や今後の自然歩道管理の在り方について情報共有を行った。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然公園の利用者数 (令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		12,800.0	25,000.0	36,600.0	47,600.0	58,000.0	千人	累計値
		実績値	11,760.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【H30年 33,171千人地点】→【R1 32,990千人地点】								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえてし、緊急性の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、自然公園の魅力向上を図った。 利用者数は11,760千人で、前年度と比較して約4%増加した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 公園内の歩道等は、利用が低迷して殆ど人が通らない箇所がある。 草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できない状況である。 市町村から、管理委託料の不足のため、積算について見直しの要望がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進んでいる。 地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 対象地域が広く施設も多い中で、事業費・体制の不足等により、不具合が出たところから修繕していくことで手一杯な状況である。 労務単価の上昇により、草刈等管理委託料が増嵩している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 管理を委託している市町村との連携をさらに強化し、地元市町村等の協力を得ながら管理運営をしていく。 国立公園満喫プロジェクト関連事業と連携し、景観の整備や安心安全で快適な施設整備を行っていく。 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急性の高い箇所から修繕を進めるとともに、市町村への施設譲渡や不要な施設の撤去を検討していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		中国自然歩道管理事業			
目的	誰(何)を対象として	中国自然歩道の利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		8,283	8,264
今年度の取組内容	県全域に渡る中国自然歩道のうち、主にモデルコースとなっている、県が整備した歩道区間・施設について、地元市町村に除草、清掃、パトロール等を委託して日常的な管理を行うと共に、破損・故障箇所の修繕を行い、快適な利用に努める。 また、自然災害などによる倒木処理・落石対策を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理を行う。更に危険箇所については、通行止などの対応により、利用者の安全確保を行う。 また、パンフレットの配布や県ホームページを活用して中国自然歩道に係る情報提供や利用促進を行う。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	管理を委託している関係市町村へヒアリングを実施し、事業を継続するうえでの課題や今後の自然歩道管理の在り方について情報共有を行った。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	中国自然歩道の利用者数 (令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		580.0	1,140.0	1,690.0	2,220.0	2,740.0	千人	累計値
		実績値	502.6							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【H30年 33,171千人地点】→【R1 32,990千人地点】								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえてし、緊急性の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、中国自然歩道の快適性や魅力向上を図った。 利用者数は502.6千人で、前年度と比較して約1.8%減少した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 ルートの区間によっては、利用が低迷して殆ど人が通らない箇所がある。 草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できない状況である。 市町村から、管理委託料の不足のため、積算について見直しの要望がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進んでいる。 地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 対象区間が長く施設も多い中で、事業費・体制の不足等により、不具合が出たところから修繕していくことで手一杯な状況である。 労務単価の上昇により、草刈等管理委託料が増嵩している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 管理を委託している市町村との連携をさらに強化し、地元の協力を得ながら管理運営をしていく。 国立公園満喫プロジェクト関連事業と連携し、景観の整備や安心安全で快適な施設整備を行っていく。 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、市町村への施設譲渡や不要な施設の撤去、ルートの見直しを検討していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。		306,342	355,185
今年度の取組内容	1. 三瓶自然館及びその附属施設については、指定管理者と協力し下記事業を実施 ①新展示施設を活用した集客増対策 ②企画展等の開催(春、夏、冬の3回)、自然観察会、天体観察会 ③各種イベント開催などを通して、自然に対する理解を深める取り組みの実施 ④島根県の自然系博物館としての調査研究 ⑤各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) ⑥三瓶自然館及びその附属施設の維持管理 2. 小豆原埋没林の保存対策と集客増 ①ガイダンス棟を活用した集客増対策 ②埋没木の保存対策工事 ③埋没木の保存状態のモニタリング				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・国立公園満喫プロジェクトの拠点施設として三瓶自然館の展示改修、小豆原埋没林公園のガイダンス施設整備を行った。(しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業 H30～設計 R1～工事) ・小豆原埋没林公園の知名度向上のため、施設の愛称募集を行った。				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	三瓶自然館サヒメル及び小豆原埋没林公園入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		162.0	162.0	162.0	162.0	162.0	千人	単年度値
		実績値	100.9							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・三瓶自然館は、展示改修工事のため令和元年11月11日から令和2年3月31日まで休館した。 ・小豆原埋没林公園は、ガイダンス棟建設工事のため令和元年10月以降延べ9日間休園した。 ・来館者からの意見として、楽しかった・おもしろい、また来たい、スタッフの対応が丁寧など多くの肯定的意見がある。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・国立公園満喫プロジェクトの拠点施設として、三瓶自然館の展示改修等機能強化を図るための整備を行った。 ・小豆原埋没林公園の機能及び知名度向上のため、ガイダンス棟の整備や施設の愛称募集を行った。 ・企画展の内容をより深く理解するための関連イベントや、季節毎の自然観察会、体験イベントを積極的に開催した。 ・利用者数は対前年度9%減の100.9千人で、工事施工に伴う休館・休園の影響があった。
課題分析	① 課題	・三瓶自然館の展示内容について、学術的価値や最新の情報が十分に伝えられていない。 ・冬期や企画展を実施していない期間の来館者数が少ない。 ・外国人の施設利用がほとんどない。 ・小豆原埋没林公園の学術的価値が十分に伝えられていない。
	② 原因	・三瓶自然館は施設・設備の整備後年月を経ており、展示についてもこれまで大幅な更新をしていないため陳腐化している。 ・外国人が理解できる施設案内や展示内容となっていない。 ・小豆原埋没林公園には、展示解説的な施設・設備がほとんどない。
	③ 方向性	・三瓶自然館では、リニューアルした展示施設を活用し、多言語化やフィールドと融合して楽しめる施設、島根の自然を分かりやすく解説する施設として来館者の増加に取り組む。 ・小豆原埋没林公園は、埋没木の保存対策を継続して実施しながら、整備したガイダンス棟を活用して展示解説の充実を図り来館者の増加に取り組む。 ・新規利用者の呼び込み対策として、HPやSNSによる情報発信の充実、各メディアの活用、観光協会等と連携したPRを行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	平成25年9月に世界認定となった隠岐ユネスコ世界ジオパークの取り組みで、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		72,656	67,646
			うち一般財源 (千円)	50,557	45,152
今年度の取組内容	地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のため、隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会与連携した取組を実施 ①隠岐ユネスコ世界ジオパークを運営する推進協議会の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパークでの島根の子供を対象とした体験学習の実施				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・国内外の認知度を更に向上させるため、情報発信手法を再検討、デジタルマーケティングやSNSを活用し、ターゲットを絞った情報発信を実施				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV	単年度値
		実績値	214,626.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		○平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定(次回再認定は令和3年度) ○隠岐地域の観光入込客延べ数:H30年168千人→R元年167千人(観光動態調査結果) ○交流人口数(推定入島客数):H30年度:124千人→R元年度:123千人 ○隠岐を訪れる外国人観光客:H30年度:911人→R元年度:1,133人(いずれも隠岐汽船利用者のみ)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	○令和3年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、平成29年7月の再認定審査における指摘事項(展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等)の対応は進んでいる
課題分析	① 課題	○観光振興の面で観光入込客数や交流人口数などの具体的な数値に結果が表れていない ○隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度がまだ低い
	② 原因	○現在の情報発信手法では、届けたい相手に情報が届いていないため、隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観などが観光資源として活用できていない ○地元の住民・事業者・行政等が来島者に魅力を伝える仕組みや取組が十分でない
	③ 方向性	引き続き以下の分野を柱とする具体的な事業を隠岐4町村及びジオパーク推進協議会与連携して取組む ①情報発信手法の見直し及び強化…デジタルマーケティングの実施、SNSでの情報発信等 ②多言語対応の強化…HPの改修、HP、リフレット、ガイドブック等の5か国語対応、QRコードの活用等 ③来島者の満足度向上…認定ガイドの養成、ジオパーク関連商品の開発、ジオサイト看板の更新 ④地域への啓発向上…島民対象の学習会・講座・検定・シンポジウム等の実施、ジオパークサポーターの養成 ⑤学校教育との連携…児童・生徒へのジオパーク学習、高校の魅力化(3高校の連携事業) ⑥施設・設備の整備…センター、ガイドハウス、人材育成機能を持つ拠点施設・中核施設の整備

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		377,794	388,644
			うち一般財源 (千円)	53,400	72,797
今年度の取組内容	<p>平成28年度、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」に大山隠岐国立公園が選定されたことを機に、国立公園をはじめとした県内自然公園(国立公園、県立自然公園等)の受入体制を整備し、国内外からの来訪者の誘致と増加を目指す「しまね自然の公園満喫プロジェクト」に取り組んでいる。</p> <p>令和2年度は、三瓶山地域、半島東部・西部地域の登山道・遊歩道や看板整備などの施設整備を進めるとともに、平成28年度から整備した施設の利用促進を図るため、体験プログラムの充実、案内サインやパンフレット等の多言語化などソフト事業を強化する。また、環境省の満喫プロジェクトは、今年度末で終了するため、次年度以降のフォローアップを検討する。</p>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<p>国内外からの来訪者が安全安心・快適に利用できるよう、自然歩道等の施設整備や案内看板の整備・多言語化を進める。また、地元地域協議会への支援を行い、体験プログラム造成やガイド養成等を図る。</p> <p>引き続き、海外旅行会社向けモニターツアーを実施する。</p>				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	III-3-(1) 稼げるまちづくり

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	67,000.0	73,000.0	79,000.0	85,000.0	人	単年度値
		実績値	64,997.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<p>・大山隠岐国立公園の関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)を環境省が推計(過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人)</p> <p>・令和元年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、98,094人(前年と比べ8.4%増加)</p>								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自然公園等の遊歩道の整備、案内看板の整備や多言語化を実施し、受け入れ体制が徐々に進んでいる ・海外旅行会社向けのモニターツアーを実施し、PRを図った。国内外からの来訪者も増えてきている ・自然を体験できるアクティビティの拠点施設として、三瓶自然館にフィールドセンターを整備した ・満喫プロジェクトの中核施設である三瓶自然館の展示施設リニューアルや小豆原埋没林公園のガイド施設を整備した
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 ・自然公園等の標識、遊歩道、看板の多言語化をさらに進める必要がある ・各地域協議会で造成されている体験プログラムなどなかなか誘客に結びつかない ・国内外における認知度が低い ・地元を紹介するガイドの不足 ・自然公園への交通アクセスが悪い
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・国の交付金の配分が十分でなく計画的な整備ができない ・ホームページやインターネットからの情報発信方法やターゲットに届いているか分析が不十分 ・ガイドの人材育成が不足している ・自然公園への路線バスなどの公共交通機関の運行が不十分
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・国への重点要望など強力な働きかけを行い、必要な交付金を十分に配分してもらう ・国内外からの来訪者のために、案内看板やサインの整備、多言語化を進める ・また、安全安心、快適に利用できる自然歩道等の施設整備と適切な維持管理を行う ・地元地域協議会へ支援し、魅力的な体験プログラムの開発やガイド養成などソフト事業を促進する ・地元協議会の今後のフォローアップを検討する ・国立公園のプロモーションやマーケティングを行い、国内外への情報発信を強化する ・自然公園への交通アクセスの手法を研究する

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	ラムサール条約の趣旨である「環境の保全」と「賢明な利用(ワイズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。		6,359	8,023
今年度の取組内容	①水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業 人の五感による湖沼環境評価調査、小中学生による流入河川調査 ②ラムサール・大型水鳥啓発事業 ラムサール関連イベント(子どもラムサール交流会、バイク&ラン、中海宍道湖一斉清掃、15周年記念事業)、大型水鳥を活用した普及啓発(水鳥観察会、パネル展示会など) ③大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業(トキ、コウノトリを活用した広域連携ネットワーク活動の支援)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・活動団体等と連携した大型水鳥関連イベント(水鳥観察会など)の実施 ・沿岸市や集客施設で宍道湖・中海の賢明利用促進のためのパネル展示会の実施				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポット来訪者数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①人の五感による湖沼環境評価調査	湖沼モニター数(人)	H28:81	H29:59	H30:61	R1:59			
		②小中学生等による流入河川調査	実施団体数(団体)	H28:31	H29:34	H30:32	R1:32			
		③中海宍道湖一斉清掃	参加者数(人)	H28:8,134	H29:7,867	H30:7,050	R1:6,665			
		④ラムサール関連イベント	実施イベント数(回)	H28:1	H29:2	H30:1	R1:1			
		⑤大型水鳥関連イベント	実施イベント数(回)			H30:2	R1:7			
		⑥賢明利用関連普及啓発	広報数(回)				R1:4			

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・宍道湖・中海の魅力を発信する事業の実施により、その魅力に触れる機会は増えている。 ・パネル、パンフレット等を新調するなど、普及啓発媒体の充実を図った。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

農林水産総務課

事務事業の名称		野生鳥獣保護対策事業			
目的	誰(何)を対象として	野生鳥獣が生息する自然環境	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、多くの県民に恵まれた自然環境を大切にすることを意識を持ってもらう		51,898	48,341
			うち一般財源 (千円)	49,586	45,839
今年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 野生鳥獣の保護を図り、自然の恵沢を享受できる環境を整えるために、鳥獣保護区等の指定をする。 野生鳥獣の生態や行動等を考慮した対策を講じるため、鳥獣専門指導員を配置し、地域での対応や県民への啓発等を行う。 野生鳥獣の保護管理と有効な被害対策や狩猟の適正化を図るために、野生鳥獣の生態や行動等の調査を行う。 鳥獣保護行政の円滑な推進のために、鳥獣保護管理員の配置 鳥獣保護に対する理解を深めてもらうため、野鳥観察会、愛鳥週間の取組、傷病鳥獣の救護などを行う。 			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ツキノワグマの保護・管理に必要な生息数調査を実施する。 鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得るよう努める。 			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	鳥獣保護区指定箇所【3月末時点】	目標値		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	箇所	累計値
		実績値	80.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ■鳥獣保護思想の意識啓発 ○野鳥観察会の開催(年2回:参加者のべ54人) 愛鳥週間のポスター募集(応募:436点) ○傷病鳥獣の救護事業(R1:12件) ■ツキノワグマの保護・管理 ○捕獲個体(R1:158頭)については、県民の安全・安心の確保の観点から、「第一種特定保護管理計画」に定めるゾーニング手法により、放獣等(60頭)・殺処分等(98頭)を行った。 ■出雲北山地域のニホンジカの管理:適正水準の180頭に向け277頭の個体数調整捕獲を実施 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護思想普及啓発活動や傷病鳥獣の救護、保護管理のための生息状況の把握、分析・検討等取組を通じ、鳥獣保護に対する理解が得られ、計画どおりの保護区設定ができた。 ツキノワグマの管理・保護については、市町村との合意形成を図りながら、放獣・殺処分の対応、また被害管理を円滑に実施した。 出雲市北山地域のニホンジカについて、農業者等への指導支援を目的に、農業者団体を主体とする被害対策連絡会議を実施し、今後の被害対策について理解を得た。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区周辺での野生鳥獣による農作物被害が発生し、保護区の設定についての住民理解が得られにくくなっている。 ツキノワグマが誤ってイノシシ用のわなに掛かってしまう(錯誤捕獲)の発生が多く、捕獲者に対して錯誤捕獲をしない箱わなへの脱出口の設置の理解が得られにくい。 ツキノワグマの適切な保護管理を進める上で、次期計画策定の基礎となる最新の生息頭数が不明。 出雲北山地域のニホンジカの保護・管理について目標頭数180頭に達していない
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 設定した鳥獣保護区周辺の荒廃した里山や耕作放棄地に定着した野生鳥獣の出没が増加。 錯誤捕獲をしないための箱わなへの脱出口の設置は、本来の捕獲対象であるイノシシも脱出する不安の払拭が難しい。 ツキノワグマの保護・管理の基礎となるH27年度以降の生息頭数調査が未実施。 出雲北山地域のニホンジカについては生息頭数が減少し、捕獲効率が落ちている
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得るよう努める。 鳥獣保護区及びその周辺での鳥獣による農作物被害に対しては、捕獲等の被害防止対策を推進。 錯誤捕獲を低減するための研修会などを実施し、放獣に対しても理解を得る。 鳥獣保護区の管理や鳥獣思想の普及啓発のため、鳥獣保護管理員の委嘱。 ツキノワグマの保護・管理は、捕獲個体の放獣と殺処分などバランスを取りながら取り組むとともに生息数調査を実施し、次期計画策定の基礎資料を得る。 出雲北山のニホンジカについては効率的な捕獲方法・体制を検討し、目標頭数180頭の達成を目指す。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

産地支援課

事務事業の名称		花ふれあい公園事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興		84,771	91,856
			うち一般財源 (千円)	84,771	85,456
今年度の取組内容	花ふれあい公園の指定管理者に管理業務を委託し、以下の取組を実施。 ・四季折々の花の企画展示や体験企画など、県民が花に親しむ機会を提供 ・県の花き振興品目を中心とした企画展示や県オリジナル品種の情報発信 ・他施設や他団体と連携した集客の実施				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・SNSによる情報発信を適時実施し、PRを強化する				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	販売額1,000万円以上の中核的経営体の育成数【当該年度4月～3月】	目標値		78.0	156.0	223.0	298.0	402.0	経営体	累計値
		実績値		-						
		達成率		-	-	-	-	-		
2		目標値								
		実績値								
		達成率		-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内産の花苗、鉢花の植栽使用率98.9%								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	県内産の花きによる展示や花壇整備、イベント等に取り組んだ。周辺観光施設のオープンも功を奏し、元年度利用者数は78,856人(昨年度比11,873人増)
課題分析	① 課題	・施設の経年劣化による修繕必要箇所の増加 ・年間パスポートの利用者が増加している反面、出雲地域以外からの来園者が少ない
	② 原因	・建設から17年経過し、必要となる修繕費に予算が追いつかない状況にある ・広域客への認知度が低い
	③ 方向性	・予算確保による修繕の早期実施 ・周辺施設等との連携やSNSの活用などの広報を展開し、県内広域エリアへのPRを強化する

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

水産課

事務事業の名称		宍道湖自然館管理運営事務			
目的	誰(何)を対象として	一般来館者、一般県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。		114,886	113,005
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・期間限定イベントや年間パスポート購入者限定イベントの実施によるリピーターに対する付加サービスの提供。 ・指定管理者が隣接地で運営する宍道湖グリーンパーク(鳥や昆虫の観察等)と連携した活動の推進及び情報の発信。 ・関係機関と連携した教育普及プログラムの充実。 ・今後の展示設備の在り方について、指定管理者と連携した施設整備及び改修の検討。 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者である財団からの寄附による施設整備を実施。(エントランスホール、宍道湖プロジェクションマッピング立体模型 新設) ・年間パスポート利用者対象の新規イベントを実施。(「年間パスポートでゴビウスを楽しもう! GO!GO!Gobius!」) 				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	ゴビウス入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	人	単年度値
		実績値	138,820.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数が2年連続13万人を達成。年間パスポート購入者数が過去最多を記録。(購入者数2,984人、対前年比106.6%) ・指定管理者である財団からの寄附による施設整備を実施。(エントランスホール改修、宍道湖プロジェクションマッピング立体模型 新設) ・年間パスポート利用者対象の新規イベントを実施。(「年間パスポートでゴビウスを楽しもう! GO!GO!Gobius!」) ・大学生によるサポーターガイドを実施。(「ゴビウスキャンパス～島大生による出張ガイド～」) ・全国発となるシラウオ周年展示記録を更新し、5年目に突入。累代飼育しているシラウオの4世代目の展示に成功した。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者である財団からの寄附による施設整備を実施し、エントランスホールの改修並びに宍道湖プロジェクションマッピングを新設し、集客施設としての魅力を増進。 ・年間パスポート会員限定の新規イベントを開催し、イベント実施月の年間パスポート利用者数が前年同月比158%、来館者数前年同月比120%を記録。令和元年度の年間パスポート購入者数が過去最多を記録。(購入者数2,984人) ・島根大学の大学生によるサポーターガイド「ゴビウスキャンパス～島大生による出張ガイド～」を新たに実施し、ボランティアを活用した新たな教育普及活動を実施。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集客施設として魅力を支える展示設備が陳腐化。 ・指定管理者が今後一層のサービス向上を図っていくための人員体制が不十分。 ・団体利用時に使用できるレクチャールームが一箇所しかないため、学校等の団体受け入れを制限しなければならない状況が発生。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」以外の展示設備は、平成13年度の開館当初から未改修。 ・館内施設の老朽化が進み、修繕費のランニングコストが増加。特に給排水・電気設備等の機械設備の老朽化が著しく、緊急修繕が必要な状況が発生。 ・教育普及サービスを求める団体客の受け入れに必要なレクチャールームのスペースが不十分。 ・館内サービスの充実に加えて、講師派遣により地域への貢献の場を広げているが、対応できる職員数が限定的。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の多くを占めるリピーターの満足度向上を目指し、定期的に新たな展示を導入。 ・限られた職員による効率的な運営を実施し、職員のさらなるスキルアップを推進。 ・関係機関との連携及び地域住民、ボランティアとの関係強化を図り、新たな教育普及メニューの開発及びサービスの充実を実施。 ・館内施設の老朽化の現況を調査・確認し、長寿命化計画に盛り込むことで、施設の安全維持のために必要な修繕の計画的な実施。 ・団体受け入れ時に利用可能なスペースの確保のため、館内スペースの利用方法及び近隣施設の活用を検討。